

## 平成 24 年度第 2 回陸上掘削部会執行部会

日時:2012 年 11 月 2 日(木)14:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者(敬称略):

執行部:井龍康文(部会長/東北大学)、廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)  
小村健太郎(防災科学技術研究所)、藤原 治(産業技術総合研究所)  
オブザーバー:柴田晋吾(MEXT)、伊藤久男(海洋研究開発機構)  
ICDPEC 委員:倉本真一(海洋研究開発機構)  
事務局:梅津慶太(海洋研究開発機構)

欠席者(敬称略):

小泉尚嗣(産業技術総合研究所)、公文富士夫(信州大学)、中田節也(東京大学地震研究所)、  
長沼 毅(広島大学)、MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

### 議事次第

1. 前回(120802)議事録確認 .....資料 1
2. 報告事項
  - ・ICDP 関連の動向および WS 参加報告 .....資料 2、3
  - ・地学雑誌特集号進捗状況
  - ・コアスクール準備状況について .....資料 4
  - ・JpGU 地球掘削科学セッションについて .....資料 5
  - ・進行中の各プロジェクト
3. 検討事項
  - ・JBBP WS へのサポートについて .....資料 6
  - ・ICDP Science Conference (2013/11/11-14)への対応と国内 WS .....資料 7-1~7-2
  - ・ICDP プロポーザル作成支援について .....資料 8
  - ・2013 年 EC と AOG の日本開催について .....資料 9
  - ・新 SAG 委員及び新執行部員の選出について
4. その他
  - ・IODP 部会で計画中の月刊地球総特集について .....資料 10

### 配布資料

- |  |   |
|--|---|
| 資料 1 前回(120802)議事録(案)                                    | 資料 7-1 Science Conference Starting Plan                         |
| 資料 2 SAG activities (Mori 議長レポート)                        | 資料 7-2 Science Conference 2013 Action items for SAG, EC and AOG |
| 資料 3 ICDP WS: Oman Drilling Project 参加報告書<br>(草野有紀/金沢大学) | 資料 8 ICDP プロポーザル作成推進 -J-DESC ウェブページ抜粋                           |
| 資料 4 J-DESC コアスクール岩石コア記載技術コース概要                          | 資料 9 2013 年 ICDPEC・AOG 会議について                                   |
| 資料 5 JpGU2013 地球掘削科学セッション提案内容                            | 資料 10 IODP10 年の成果まとめのための月刊地球総特集について                             |
| 資料 6 ICDP WS: Japan Beyond-Brittle Project (JBBP)情報      |   |

## 議事録

### 1. 前回(120802)議事録確認 .....資料 1

会議終了までに訂正・加筆等はなく原案のまま承認された。

### 2. 報告事項

#### ・ICDP 関連の動向および WS 参加報告 .....資料 2、3

WS 参加報告について井龍部会長より説明がなされた。

- ・ 金沢大学の草野氏を Oman Drilling Project に派遣した。
- ・ この報告書を J-DESC ウェブにアップする。

**実行項目 (121102-01) :** 写真を追加し、参加した日本人の名前を明記するよう報告者に事務局より要請する。

**実行項目 (121102-02) :** このプロジェクトに関してサポートが必要かどうかを井龍部会長から問い合わせる。

#### ・地学雑誌特集号進捗状況

井龍部会長より報告がなされた。

- ・ 全 9 編の予定で、すべての原稿が 1 回目の査読を終了しており、うち 5 編が受理済み。
- ・ 出版は来年の 2 月号に決まっている。
- ・ 出版物の買い取りを検討する。

**実行項目 (121102-03) :** 買い取りの際の価格を東京地学協会に確認する(実行者:井龍部会長)。

#### ・コアスクール準備状況について .....資料 4

井龍部会長より説明がなされた。

- ・ 今年度も産総研にて岩石コア記載技術コースを開催。
- ・ 開催期間は 2013 年 3 月 25 日～27 日。
- ・ 世話人は前執行部の山元氏。
- ・ 内容は火山岩コア。
- ・ 来年度以降、産総研とも話し合い、別の機関での開催を検討する。来年度第 1 回会議の際の議題とする。

#### ・JpGU 地球掘削科学セッションについて .....資料 5

井龍部会長より説明がなされた。

- ・ IODP 部会と共同で提案。
- ・ 代表コンビーナは IODP 部会執行部の横山祐典氏。共同コンビーナとして、井龍部会長、IODP 部会の辻健氏、鈴木庸平氏、梅津。
- ・ 昨年のセッションではポスターと併せて 46 件の発表があったが、会場が狭かったところが反省点。
- ・ 来年は広い部屋を確保するように努力する。

#### ・進行中の各プロジェクト

COREF: 特に進展は無い

GONAF: 掘削実施中。来週 PI の一人が来日し、状況を聞く予定。

JBBP: 3/12～16 に東北大工学部にてワークショップを開催。フルプロポーザル執筆のプランやそのサポートについて、浅沼氏と来週会談をもつ。

Alpine: 採択され、来年 2 月に掘削を開始する予定。掘削現場に日本から行く予定はない。部会からお金が出るのであれば誰かが行くことができるが、お金がでなければ誰も行かないだろう。

→個人ではなく、ある程度コミュニティのためになるような仕事をしてもらえるのであれば、部会としてお金を支援するのはやぶさかではない。

合意事項(121102-04):今日欠席の執行部メンバーにもメールで提案し、了解が取れば掘削現場への派遣を行う。

### 3. 検討事項

・JBBP WS へのサポートについて.....資料 6

伊藤氏より標記の件について報告がなされた。

- ・ 10/30 に東北大にて準備会合が行われた。
- ・ 各セッションのオーガナイザーはほぼ決まっている。

実行項目(121102-05):JBBP に対して必要なサポートは無いのか浅沼氏に伺う。結果はメールで報告する(実行者:井龍部会長)。

・ICDP Science Conference (2013/11/11-14)への対応と国内 WS .....資料 7-1~7-2

井龍部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ ICDP として今後どのようなサイエンスを行うのかについて話し合うカンファレンスであり、IODP で行った INVEST の ICDP 版のようなもの。
- ・ 日本のコミュニティを代表する J-DESC としては、日本の SAG、EC、AOG 委員を通じてメッセージを伝えたい。
- ・ 従来の ICDP は深い孔を掘るプロジェクトがメインになっているが、浅い孔をたくさん掘って防災等に役立てるような内容をこの Conference に入れ込みたいと考えている。これについて日本から誰かを派遣したい。

倉本 EC 委員および柴田氏より補足説明がなされた。

- ・ EC 委員には議長から案(資料 7-1)が示され、意見を求められた。
- ・ その後、資料 7-2 にあるメールが届き、人選についての相談があった。
- ・ IODP の New Science Plan は良くできており、ICDP でもそのようなものを作りたいというのが AOG で Brian より説明があった。
- ・ 但し、前回の Book の出版は行わない方針のようである。

実行項目(121102-06):1 週間以内に Keynote speaker 候補者名と日本から発信したいサイエンスの内容を検討し(執行部全員にメールで調整)、Mori 委員に連絡する。それぞれの分野の担当者は以下の通り。

火山:中田

津波・ハザード:藤原

断層:廣野、小村、小泉

湖沼:公文

微生物:長沼

環境:井龍

実行項目(121102-07):地学雑誌特集号の出版記念ワークショップを 2 月末または 3 月末に開催する。日程は執筆者と調整する(調整実行者:廣野部会長補佐)。

これとは別に INVEST の際の国内準備 WS に似たような討論のトレーニングのような WS を来年 7 月か 8 月に実施できれば良い。

・ICDP プロポーザル作成支援について.....資料 8

井龍部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 以前はプロポーザル提出前切前の 10 月 1 日を前切として、国内のプロポーザルレビューを行っていた。

- ・これは国内のプロポーザルの状況を把握するという役割も担っていたが、最近ではこれを活用する研究者はほとんどいない。
- ・今後はもう少しこの活動(プロポーザル作成支援)をアクティブにしていきたい。
- ・1/15 の ICDP 側の提出メ切を考えるとこれまでのメ切である 10/1 というのはあまり適切ではなかったかもしれない。
- ・12/1 までに提出するかどうかを知らせてもらい、12/15 までにプロポーザルの原稿を提出してもらおう。

**実行項目 (121102-08) :現在のウェブページの 10 月 1 日メ切としている部分をひとまず修正する(実行者:事務局梅津)。**

- ・ゆくゆくは採択率を高めるための工夫や執筆項目ごとのポイントの解説をウェブページにアップする。

**実行項目 (121102-09) :プロポーザル作成の敷居を低くするため、プロポーザル作成支援のためのウェブページ改訂の原稿を作成する(実行者:井龍部会長)**

・2013 年 EC と AOG の日本開催について.....資料 9  
倉本 EC 委員より説明がなされた。

- ・国内のコミュニティを活気づけたいとの思いで日本での開催を EC に提案した。
- ・EC(2 日間)と AOG(2 日間)は日本にて続きで開催する(EC と AOG の間に 1 日巡検)。
- ・日本の中で ICDP に関するアクティビティが高い場所でローカルホストを担ってもらえる方がいるところ、および巡検ができるという条件を鑑みたと、仙台が有力候補となっている。巡検は津波被害の場所や地熱掘削関連の場所が候補として挙げられる。
- ・時期は 7 月前半で、具体的には井龍部会長と倉本 EC 委員、柴田 AOG 委員で相談し決定する。
- ・会場は井龍部会長が探す。

・新 SAG 委員及び新執行部員の選出について  
井龍部会長より説明がなされた。

- ・新 SAG 委員については、すでに推薦する機会を失ったことが Mori 委員より報告された。
- ・新執行部員については引き続き井龍部会長からさまざまなバランスを考慮し、交渉を行う。

#### 4. その他

・IODP 部会で計画中の月刊地球総特集について.....資料 10  
事務局梅津より説明がなされた。

- ・これまでの IODP の成果をまとめて月刊地球の総特集として発行することを IODP 部会にて決定した。
- ・4 章構成となっており、第 1 章は IODP の成果、第 2 章は「ちきゅう」の成果、第 3 章は日本がリードする掘削科学研究トピックス、第 4 章は 2013 年 10 月以降の IODP のサイエンスである。このうち、第 3 章については、陸上掘削関連のトピックスを入れてほしいとの要請が IODP 部会から上がっている。

**合意事項 (121102-10) :陸上掘削部会からのトピックスとしては、国内発の ICDP プロジェクトの紹介を 1 本にまとめて掲載する。**

・ICDP の国内アクティビティについて  
事務局梅津より、以下の意見があった。

- ・今後、国内における ICDP の活動を活発化するため、もっと ICDP の WS を活用していただきたい。
- ・そのためには、執行部で宣伝する方法を検討してもらえるとありがたい。

**実行項目 (121102-11) :JpGU の地球掘削科学セッションで ICDP の仕組みを紹介できる時間を設けることを検**

討する(実行者:井龍部会長)。

・ICDP の国際事務局について

柴田氏および倉本氏より情報提供があった。

- ・ AOG では ICDP のステータスが今後変わるかもしれないという話が出た。
- ・ GFZ が ICDP の事務局をやっているが、透明性を高めるために事務局を別の機関が担う可能性もある。
- ・ GFZ が NPO や NGO に変わる可能性がある。EC の場での報告では、GFZ が課税されないようにするための措置との説明があった。

・次回会議日程

国内ワークショップの後、今年度のまとめと来年度の方針を決定するために開催。

国内ワークショップのための準備会合は適宜実施する。